レッスンガイド

ネームタグの輪郭をカットする準備

外側のエッジより先に開口部を加工する、別の輪郭カット用ジョブを準備します。

このガイドはAIで翻訳されています。重要な手順は英語の原文と照合してください。

ソフトウェア操作の練習

機械なしを選択したまま、未接続の状態を保ちます。これらのファイルには、ソフトウェアのプレビュー用の操作例の値が保持されています。実際の素材でテストした設定ではありません。コースのマシンプロファイルへのリンクは、学習者用コピーから削除されています。

彫刻	開口部	外側のエッジ
表示、出力オフ	線を先に	線を最後に

彫刻用とカット用のコピーを分けます。外側の境界より先に開口部をプレビューします。

1. 未接続の状態で、**機械なし**を選択したまま**name-tag-cut-start.lzrproj**を開きます。**彫刻のメイン出力をオフ**にし、表示はオンのままにします。

2. 青色の空白ガイドレイヤーを選択し、その**メイン出力**を有効にして、**線**のままにします。完成例では、このレイヤーに**カット**という名前が付いています。

3. その輪郭操作ではエアアシストをオンにします。物理的な効果は、プロファイル、コントローラー、設定済みのハードウェアによって異なります。

4. 実行 > 最適化で、**有効化**と**内側の形状を先にカット**をオンにしてから、OKをクリックします。

5. 移動経路の表示をオフ、進行状況の表示をオンにしてプレビューします。開始位置に移動して順に確認します。開口部が外側より先に実行され、文字は表示されないはずです。

6. 別のコピーとして保存し、**name-tag-cut-finished.lzrproj**と比較します。元の彫刻バージョンは残しておきます。

個別練習

個別練習

name-tag-cut-practice.lzrprojを開きます。彫刻を除外し、青色の輪郭を線モードで有効にしてエアアシストをオンにし、内側の形状を先にカットを有効にします。

□ アートワークのジオメトリはすべてそのままにし、表示状態にします。解答例では、青色の処理レイヤーにカットという名前が付いています。

□ 開始位置からプレビューして、外側のエッジより先に開口部が処理されることを確認します。別名で保存し、name-tag-cut-practice-answer.lzrprojと比較します。

二回目の彫刻を防ぐメインの出力スイッチはどれですか。

外側をカットする前に順序を確認するのはなぜですか。

エアアシストをオンにすれば、空気が実際に流れていることが証明されますか。

比較できる状態を保つ

提供された開始ファイルはそのまま残します。解答を開く前に、自分の結果を別のファイルとして保存します。

解説付きの解答とファイル

解説付きの解答とファイル

練習時の出力
彫刻のメイン出力はオフです。青色のカットレイヤーは、エアアシストを有効にした線モードでオンになっています。

順序
最適化が有効で、内側の形状が先に処理されます。内側のカットの間も部品を支えられるよう、開口部が外側より先に実行されます。

機械の確認
ソフトウェアのスイッチだけでは、物理的な空気の流れやカット品質は証明できません。実際の素材でテストした設定を使用し、設定済みの機器を確認してください。

name-tag-cut-finished.lzrproj
保存された実演用の設定であり、物理的に完成した結果ではありません。

name-tag-cut-practice-answer.lzrproj
試行後に、保存されたフィールドとアートワークを比較します。

name-tag-cut-practice.lzrproj
このレッスン用の個別練習用開始ファイルです。

name-tag-cut-start.lzrproj
実演された設定に従ってください。

後でカットする場合は、素材を固定し、基準、プロファイル、配置、エア、フォーカス、換気、保護メガネを確認してから、フレームを実行し、作業を監視します。部品を持ち上げる前にカットを確認してください。保存された解答から、実際に貫通したことは証明できません。

該当する場合、実演されたBeam Bench 0.2.37のコントロールと修正後の終了状態に一致します。後のパネルレイアウトは異なる場合があります。